第21回 日本手話教育研究大会

2022年 2月19日(土) 10時～16時

zoom にて開催

午前の部 10時～12時 基調講演「日本手話のフィラーとは？」

富田 望 氏 フレーミングハム州立大学 助教
ハーバード大学 博士研究員

生野高等聾学校卒業、佛教大学英米文学学科卒業、日本財団聴覚障害者留学助成金事業の三期生として米国に留学、ギャロデット大学院 言語学学科、カリフォルニア州立大学 サンディエゴ校のパッデン博士の研究室で助手、ギャロデット大学で博士（言語学学科）

日本手話において、指差しは名詞句だったり、代名詞だったりで文章全体の中で見るととても小さな部分である。しかし指差しの使用の変化を全体的に見ると、実に多くのことがわかる。この講演では博論で使用した言語データとその分析からわかったことをまとめつつ、日本手話のフィラーの使用例を列挙する。

ここでの講演では日本手話教育の分野において、この研究が示唆するものがどのように結びつくのか「立場的な内容」を提供することを目的とします。

指差しの使用が文章的に「整って」いないとは？
空間の使用においてフィラーとしての役割を果たしているとは？
指差しが意義的に使用されているとは？
接続語としての指差しとは？
スムーズな接続語としての指差しとは？
戦略的に使用するとは？

こうした疑問に対して、博論で記述した言語使用例を提供することにより、談話において、指差しを戦略的に使用するとはどういうことなのかという広義的な質問に答えていきます。

休　憩 12時～13時30分
- ◆ CM
- ◆ ポスター発表

午後の部 13時30分～16時 登壇発表・活動報告

内容については裏面をご覧ください
使用言語 ▶ 日本手話
※日本語への通訳はございません

大会参加費〈予稿集込み〉
法人会員・サポーター ▶ 2,000円
一般 ▶ 2,500円
支払方法 … PayPal ペイパルによる決済

申込み方法
こちらの「QRコード」 ▶
もしくは
申込みURLよりお申し込みください。
https://forms.gle/t9TRwZwrg28k6zBv7

申込み〆切：2022年1月26日(水)

【申込みの流れ】
申し込み後、3週間以内にNPO法人手話教師センターより「PayPalご入金のお願い」のメールが届く
▼
内容を確認しPayPalでご決済
※ご決済後のキャンセル払戻しはできませんのでご注意ください
▼
入金完了確認メールが届く
▼
本大会の1週間前に案内・招待URLメールが届く

【主管】「第21回 日本手話教育研究大会」実行委員会
〈Mail〉jslt.rm@gmail.com 〈Facebook〉https://www.facebook.com/jslt.rm2018/

第21回 日本手話教育研究大会

〈研究発表〉内容

休憩 ◆ ポスター発表

多義語<省く／除く>の使い分けに関する調査

NPO法人手話教師センター
森永慶子・黒田栄光・袴田容代・
吉川あゆみ・今井彰人

手話<省く／除く>には、利き手を横に動かす場合と下に動かす場合の2通りの表現が見られる。
横に動かす<省く／除く>は主に具体的な物や人に関する時に使われ、下に動かす<省く／除く>は主に目に見えない事柄に使われることが多いと考えられるが、実際のところ、この二つの表現は何らかの使い分けがなされているのか、その場合、どのような意味の違いがあるのかについて調べた。
調査は、手話が第一言語であるろう者を対象に、手話動画をはめ込んだWebを用いた質問調査を実施した。15文中で、各文の<省く／除く>の利き手の動きは横か下かを尋ね、その結果をまとめた。

午後の部 ◆ 登壇発表

「高等教育機関における手話通訳のニーズと活用に関するヒアリング調査を通して」

吉川 あゆみ(関東聴覚障害学生サポートセンター)
白澤 麻弓(筑波技術大学　障害者高等教育研究支援センター)
江原 こう平(国立障害者リハビリテーションセンター学院　手話通訳学科)

大学・大学院等の高等教育機関における情報保障は、ノートテイクやパソコンノートテイク等の文字通訳が拡がりを見せているが、手話通訳のニーズも根強いものがある。
今回、高等教育と手話通訳の関連を明らかにするため、実際に大学で聴覚障害学生の支援を担当している聴覚障害のある教職員を対象にヒアリング調査を実施し、手話通訳のニーズや特質、課題を探った。その結果、対象者全員が、日本語の読み書きに不自由しないにもかかわらず手話通訳を必要としており、手話通訳をつけることによって文字通訳とは異なる有益な情報を得ていること、手話通訳と共働し専門職として活動していることが示された。

「授業実践報告 ～ろう児が楽しむオノマトペの世界～」

坂森 萌笑(明晴学園小学部教諭)

日本手話と書記日本語のバイリンガルろう教育を行う明晴学園では、「手話」と「日本語」という独自の教科を設けている。日本語の授業では、国語の教科書に掲載されている詩や物語の理解を深めるために、日本手話と書記日本語の両方を使いながら学んでいる。今回は、「ざぶん」「むしゃむしゃ、もぐもぐ」などのオノマトペを取り上げた授業実践を紹介する。ろう児には理解しにくいと考えられがちなオノマトペであるが、日本手話のＣＬやNM表現、ＲＳを用いて、情景を思い浮かべ、語の持つイメージをとらえることができる。その過程を報告する。

「日本手話の授業の試験について ～現状や検証から試験問題作成の試み～」

野口 岳史
(国立障害者リハビリテーションセンター学院
手話通訳学科)

授業の成績評価の基準に、出席やレポートなどあるが、本稿では試験（小テストも含む）に着目し、日本手話の授業に試験を取り入れる方法を検討する。まず、NPO法人手話教師センター会員を対象にインタビュー調査を行い、「日本手話」の授業の評価方法を広く収集し、それぞれの評価方法の効果や問題点を整理する。ここで得た知見から、筆者の授業に試験を取り入れた試みを分析し、メリットとデメリット、改善点について報告する。これらをまとめ、今後の日本手話の授業評価法について考察を行う。

午後の部 ◆ 活動報告

「ろう通訳者と聴通訳者の協働による通訳について」

NPO法人手話教師センター

【主管】「第21回 日本手話教育研究大会」実行委員会
〈Mail〉jslt.rm@gmail.com 〈Facebook〉https://www.facebook.com/jslt.rm2018/